



杉並区立
浜田山小学校

学校だより第552号
令和3年度 7月号

はまだやま

校長 伊勢 明子
副校長 越山 宗治

当たり前は人により違う

副校長 越山 宗治

昨年度は全く実施できなかった水泳指導ですが、今年度は、一度に行う人数を半分程度にして、距離をとったり、しゃべらず行ったりと感染症予防に留意して行うこととなりました。先日、早速4年生の指導を見に行きましたが、子どもたちは、誰もしゃべることなく、黙って水泳の学習を行っていました。私などは、冷たい水に入る際、つい声をあげてしまうのが当たり前と感じていたので、しゃべらないことが当たり前とでも言いたげな4年生の態度は、とても立派だと感心しました。

さて、人は当たり前と思うことは難くこなせますが、そうでないことを行うのは、難しいと思っている人も多いのではないのでしょうか。そして世の中には、多くの人が当たり前と感じていることを、難しいと感じている人たちがいます。

難しいと感じるレベルはいろいろですが、例えばじっとしていることが苦手だったり、一つのことに集中することが苦手だったり、どんな口調で言われても、発せられた言葉の意味どおりにしか理解できなかったりという人たちがいます。そして他の人ができて当たり前と感じることにについては、できないことそのものが理解されなかったり、ふざけていると思われたりします。しかし、本人にとっては、どんなに頑張っても、なかなかできないことなのです。足にギプスをして、松葉杖をついている人に、全力で走れと言う人はいませんが、同じ怪我をしていても、それが外から見えなければ、知らずに言ってしまう人はいるのではないのでしょうか。

頑張ればできることなら、頑張らせることは有効ですが、そうでないことは、別の方法を探ることが大切です。例えば、遠くがよく見えない人は、近視用の眼鏡をします。同じように、字づらでしか意味を理解できない人は、人の表情や声色について判別する方法を学習することが必要となります。ただし、場合によっては、特別な知識や技能をもった人でないと対応できないこともあります。

いずれにせよ大切なのは、その子は何が得意で、何が苦手なのか。そして苦手なものは、将来の自立を考えたとき、許容できるのか、できないのかではないかと思います。

最初に取り上げた4年生。大変立派です。でも、だからと言って苦手なことがないわけではありません。大切なのは頑張ること。そして、自分だけでどうにもならないときは、人に助けをもらうことです。そして、お互いがお互いを尊重しあって、理解しあうことができたらすてきだと思います。

7月の生活目標 『整とん名人になろう・物を大切にしよう』

「緊急事態宣言」から「まん延防止等重点措置」となりました。基本的に生活の中では『新しい学校生活様式』『あいてますか』を意識していかななくてはなりません。なぜ、そうすべきかを考え、慣れることを目標に1学期を過ごしてきました。3密をさけ、自分からすすんで手を洗うことが当たり前にできるようになってきています。

さて、夏季休業日を前に、自分たちが使っていたところを清掃し、できる限りきれいにしていきたいと思います。感染防止対策から、清掃の仕方も大きく変わっています。週2回程度の清掃時間には、高学年をお手本に、当番の友だちと声をかけ合って、しっかりと清掃している様子が見られます。昇降口、廊下や階段、流し台やお手洗いなどの消毒や清掃は、用務主事の方々が毎日行っています。感謝の気持ちを忘れずに、さらに清掃活動を通して、物を大切にすることを育て、整とん名人を目指す7月にしていきます。